

令和6年度 弘前市総合計画審議会 議事概要 (第1回)			
日 時	令和6年7月17日(水) 10時00分～12時00分		
場 所	弘前市役所 市民防災館3階 防災会議室及びオンライン	傍聴者	0人
出席者	委員 (14人)	【会場出席(12人)】 森会長、今村委員、鴻野委員、棟方委員、藤田委員、大西委員、田澤委員、小山(悟)委員、清藤委員、鈴木委員、成田(幸)委員、外崎委員 【オンライン出席(2人)】 高島委員、成田(志)委員	
	事務局 (6人)	企画部長、企画課長、企画課参事兼課長補佐、企画課総括主査、企画課主査(2人)	
	その他		
会 議 概 要			
1 開 会			
2 議 事			
(1) 令和6年度弘前市総合計画審議会の進め方について			
○事務局からの説明に対し、委員からの質問・意見等なし。			
(2) 弘前市総合計画リーディングプロジェクトの一次評価について			
○主な質疑等の内容は以下のとおり。(「・」委員意見、「⇒」事務局回答)			
【評価全体】			
・具体的にどの程度成果があったのかを判断するために、実際に数値が何件増えた等の記載をもっと増やしてほしい。			
⇒各リーディングプロジェクトの評価内容について、数値等の記載が少ないものは修正を検討する。各施策については、次年度の評価からは全庁で、全ての施策において数値等も入れた客観的な評価内容を記載するよう促していく。			
【リーディングプロジェクト「(1) ひとの健康」】			
・「ベジチェックを活用したことで、野菜摂取の大切さを意識づけることができました」とあるが、市ではベジチェックを何台保有しどう活用しているのか。数校の学校で活用するだけでは、野菜摂取の意識付けにつながったと評価できないのでは			

ないか。

⇒ベジチェックは現在 10 台保有しており、中心市街地の店舗など 4 箇所常設しているほか、残りはイベントへの出展や学校現場で活用しており、学校現場では、昨年度は市立小・中学校 2 校でベジチェックを活用したモデル事業を行うとともに、希望する学校数校にベジチェックを貸与した。そして今年度は市立全小・中学校で最低 1 回はベジチェックを活用するよう巡回しており、野菜摂取の意識付けに取り組んでいる。評価にあたっては、学校現場での活用に加えまちなかでのイベントでも多く活用したことをふまえて判断しており、子どもが楽しめるイベントを通じて働き盛り世代の保護者を呼び込み、実際に親子でベジチェックを体験することで、子どもを含め多くの参加者に健康の意識付けができたと考えている。

・なぜ小学生の肥満傾向が悪化しているのか、原因の分析はできているか。そこをもう少し突き詰めていかないと、必要な対策も見えてこないと考える。

⇒肥満傾向児の増加は全国的な傾向であり、一般的には食生活やコロナ禍での運動不足などが要因と言われるものの、明確に当市の傾向や原因は分析できていないのが実情である。現状では、野菜摂取の推進など食生活の改善や運動の必要性などについて理解していただくよう、様々な取組を重層的に打ち出すことで、肥満傾向の改善につながるよう取り組んでいるが、いただいたご意見もふまえ、今後は学校現場の生の声を聞いて実態を把握するため、養護教諭等と意見交換した上で必要な取組を検討していく。

・保育現場にいる身として、また子どもを持つ親として、就学前の段階では好き嫌いもなかった子どもたちが、小学校に上がると好き嫌いや食べ残しなど食習慣が乱れてしまったり、また家庭でのゲームやスマホなどで生活習慣が乱れてしまったりなどの傾向があるので、改善する必要があると感じる。

⇒市としても、小学校に入学してから肥満傾向児が増えてくる点を以前から課題と捉えており、ご意見をいただいた好き嫌いや食習慣の乱れなど様々な要因があるものと認識している。総合計画の④健康・医療 1-1) 望ましい生活習慣の定着の分野では、子どもの頃からの食育・健康づくり推進のため、今年度、幼児教育・保育施設や教育委員会、養護教諭等との協議調整を行うこととしており、子どもの肥満対策を含めた各関係課の取組を共有しながら、必要な取組を検討していく。

・これまで子どもたちや親の食に関わってきて、「楽しい」ことが大切だと実感している。偏食の子でも、楽しい雰囲気ですぐ美味しく食べられる場面があると思うので、例えば食生活改善推進員や健康づくりサポーター等と連携し、各家庭への働きかけも大事だが、子どもたちが嬉しい、楽しいと思える雰囲気づくりにも留意して取

り組んでほしい。また、子どもの貧困に関連して食事を支援する取組などもあるが、価格だけでなく栄養なども考えたうえで取り組まれるとよいと思う。

⇒食が細い子どもが、給食を食べれないことで学校に行きたくなくなる事例を取り上げた記事もあることから、他の委員からもご意見があった子どもたち一人一人に合った健康目標や楽しい雰囲気づくりなどを参考に、引き続き取り組んでいく。

・「高齢者ふれあい居場所づくり事業」について、活動継続が困難だった理由と、新規開設が進んだ理由（インセンティブ）について知りたい。

⇒困難だった理由はコロナ禍の影響、新規開設が進んだ理由は市補助金の活用が理由と考えられるが、詳細は担当課に確認する。

【リーディングプロジェクト「(2) まちの健康」】

・成果欄の、＜2 中心市街地の機能強化＞において、「健康づくりのまちなか拠点整備事業では、関係機関との協議や利用者アンケート、市民ワークショップ等を行いながら、市民の声を反映した健康づくりの拠点整備が推進されました。」との記述について、健康づくりの拠点整備の工事にはまだ着手しておらず、整備が完了したわけでもないの、文章の末尾の表現を修正すべきだと考える。

⇒ご意見を踏まえ、表現を修正する。

・＜1 足腰の強い産業の育成＞について、「課題」と「2024年度に重点的に取り組む内容」の欄では、りんご産業について記述しているが、「2025年度の方向性」の欄では、りんご産業ではなく企業誘致について記述しており、一貫性・整合性がないのではないか。「2025年度の方向性」の欄においても、りんご産業について記述すべきではないか。

⇒本プロジェクトに紐づいている17の計画事業のうち、農業分野の計画事業数は2となっており、残る15の計画事業は、観光振興や中心市街地活性化、再生エネルギー、防犯カメラ、除排雪など、分野が多岐に渡っている。評価シートには、限られたスペースに、幅広い分野の各事業の特記事項を中心に記載したく、現状の記載内容となっていることをご理解いただきたい。

なお、りんご産業は当市の基幹産業であり、その重要性は2025年度以降も変わらないものと認識している。

・後継者不在園地継承等円滑化事業について、事業の実績がどれくらい伸びているのかお知らせいただきたい。

⇒マッチングの累計件数は100件近い数値だったと思うが、正確な数値は次回の審議会でお示しする。

・企業立地推進事業について、現在の誘致企業の数をお知らせいただきたい。
⇒41社である。

【リーディングプロジェクト「(3) 미래の健康」】

質疑なし。

(3) SDGs 未来都市としての取組状況について

○主な質疑等の内容は以下のとおり。(「・」委員意見、「⇒」事務局回答)

・小、中、高、大学生だけでなく、就学前の子どもたちに向けた取組も行ってほしい。
りんご作業の持続化がテーマなので、りんごに関する体験学習等でもよいと思う。
⇒ご指摘のとおり、SDGs の普及啓発については、未就学児向けの取組を特段打ち出してこなかったため、今後検討したい。

・りんご自体に興味を持ってもらうきっかけづくりとして、遊び心のある「りんご検定」のような取組があると面白いと思う。
⇒津軽ひろさき検定や、ひろさき卍学ではチャレンジ卍という簡易テストを行っている。遊び心という点がキーワードだと思うので、いただいたご意見を参考にしたい。

3 閉 会